

議会活性化特別委員会会議録

(令和4年2月18日)

愛 南 町 議 会

愛南町議会議会活性化特別委員会会議録

本日の会議 令和4年2月18日(金)
招集場所 大会議室

出席委員

委員長	金 繁 典 子	副委員長	吉 田 茂 生
委員	尾 崎 惠 一	委員	嘉 喜 山 茂
委員	池 田 栄 次	委員	少 林 法 子
委員	石 川 秀 夫		

欠席委員

なし

出席委員外議員

議 長 原 田 達 也

傍聴委員外議員

議 員 吉 村 直 城

職務のため出席した者

議会事務局長 本 多 幸 雄 局長補佐 小 松 一 恵

説明のため出席した者

なし

本日の委員会に付した案件

- (1) 調査研究事項1 「議会基本条例に関すること」
- (2) その他

開 会 11時26分
閉 会 11時52分

○吉田副委員長 それでは25分になりましたので、議会活性化特別委員会のほうを開催していきたいというふうに考えております。よろしいでしょうか。

委員長挨拶、本来すべきで先ほど委員長挨拶しましたので、そのまま議論に入ってもよろしいでしょうか。よろしいですかね。じゃあそのまま議論に、活性化委員会のほうに入っていきたいというふうに思います。

じゃあ委員長、すみません、よろしくをお願いします。

○金繁委員長 皆様どうもお疲れさまでした。朝早くからお集まりいただきありがとうございます。ありがとうございました。

この初めてのズーム会議を一生懸命準備してくださった事務局の皆さん、本当にどうもありがとうございました。音は、初めてのことだったのでね、聞こえづらいところもありましたが、またこういう機会があればどんどん改善していくと思います。

で、まず、今日の研修の感想なり意見なり、一言ずつでも頂けたらと思いますが。

尾崎委員からお願いします。

○尾崎委員 今日は非常に貴重な時間を過ごしたような気がいたします。議会基本条例というのはいかに重要であるのか、またそれを実践していくことがさらに重要であるというようところで、私も議員として、しっかりと自覚と責任を持って、勉強を重ねながら実践していきたいと、そういう意識を持てるような研修会であり、大変有意義なものでありました。

以上です。

○金繁委員長 では次に、嘉喜山委員をお願いします。

○嘉喜山委員 やはりこういう考え方もあるのかなという感じで聞いておりました。今後、こういった、教えてもらったことを本当に実践できるかどうかとも考えながらやっていければと考えています。

以上です。

○金繁委員長 池田委員、お願いします。

○池田委員 議会の、議員の原理原則を教わったような感じです。参考にしながら、しかし、愛南町のおおらかさとか、そういう住民、一番大事なこともありますので、そういうことも考えながら、今から活動していかなといけんなと思いました。

以上です。

○金繁委員長 少林委員。

○少林委員 ……教えてもらいつつ、マネジメント的に見ると、まさにそう思っていたので、まずは、この今、普通にやっている一つ一つをもう一回しっかり洗い出してみて、あとみんなとこう話し合いを一つ一つテーマを決めてこう、実際に変えていけるかどうかという、具体的に具現化していくということをしていきたいと思います。

○金繁委員長 石川委員、お願いします。

○石川委員 議会の議決権というのがいかに重要であるかと。まあ議決がなければ執行はできないわけで、そこに関わる議会として、今後のこの政策提言を含めて、考えていきたいなというふうに思っております。

○金繁委員長 すいません、政策提言を、含めて。

○石川委員 政策提言を含めて、今後の議会活動を進めていきたいなというふうに思っています。

○金繁委員長 吉田副委員長、お願いします。

○吉田副委員長 私も議会の重要性っていうのはすごく感じてはいるんですけども、なかなか実行できていないのかなと。私が議員になった最大の、一番大きなポイントは、愛南町をよくしていきたいというそこだけなんです。細かなことを私もいろいろと言っているようで、それはやっぱり町民のためにとるところが一番大きいのかなと。従来から一般質問をさせていただいていますけれども、現状の問題点を論争していきたいということはぶれていない

つもりでいます。

ただ、残念ながら愛南町の議会の場合については、そこまで到達していない、違うところの議論があまりにも多過ぎるんじゃないかなと。本質で、本当にこの人口が減っていく、20年、30年、40年、私が離れて愛南町の現状を見てみますと、本当に疲弊してしまっている現状を見て、愕然としています。そういう中で、いろいろと町民のためにという論点を、やっぱりこう全体が変えていかないと、本当によくならないというふうに考えていますので、今日の先生の意見というのは本当に実体験をした元町長の観点だろうと。本当に目先、住民のためになっているのかどうか、議長もそれから執行のほうも含めて、もう一回見直しをしながら、よくしていきたいというふうに感じました。

以上です。

○金繁委員長 はい、ありがとうございます。

私も今、吉田副委員長がおっしゃられたことと重なるんですけども、やっぱり町民のためにね、私たち議員になっています。で、そのためにやるべきこと、最初、研修の一番最初に皆さんが一言ずつ先生におっしゃられた中で一番多かったのが、政策提言できる議会になっていない、なりたいという、すごく前向きな御意見でした。で、終わった後もまたそういう、改めて御意見が出ました。ぜひそういうふうに、少しずつ変わっていったらと思います。私たち一人一人の努力次第だと思います。

で、今日は、この条例の前文、目的、最高法規性について理解を深めるということなんですけれども、総論的なことで先生からおっしゃっていただいたことが、いろんなヒントがあったと思います。例えば、傍聴規則については、50年前のものじゃないですか、とかね。そういう一つ一つ具体的な検討は、もっと下の各論の条文のところで行けるかと思いません。

で、今日、最後に先生のほうからいただいた予算ですね、3月議会、目の前に来ています、大きな来年度の予算について、まずはその予算をいただいて、執行部から出てきたものをみんなでこう話し合っ、これでこの部分は大丈夫なのか、それから職員さんが疲弊せずに行けるのか、そういった検討というか話し合いを議員の中でしたらどうですかというアドバイスを頂きました。まずこれについてちょっと話し合えたらと思いますけれども、皆さんのお考えはいかがでしょうか。

石川委員。

○石川委員 まさしくその説明会がこの3月にあるわけで、その説明会を受けて、執行部からの来年度予算の説明を受けて、やっぱりそこを検証するっていうのは、議会としても重要なんじゃないかなと、私はそう思っています。

○金繁委員長 ありがとうございます。前向きな御意見いただきました。ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。

嘉喜山委員。

○嘉喜山委員 石川委員言われたとおりのんですけど、やはりもっと深掘りして、予算の中身を見ていきたいなと思っています。で、前にも言いましたが、予算特別委員会的な形が将来的には取れるような方向でいけたらと思っています。

○金繁委員長 そうですね、将来的には予算特別委員会を立ち上げて、しっかりと中身を深く見ていけたらと思いますが、当面の、もうあと1か月後に、もうないですね、来ている3月議会、ここで従来なら議員間で話し合うという機会はないんですね。皆さん、全く、1期目の方は御経験はないので少し説明しますと、3月の10日でしたかね、9・10ですか、2日間、予算の勉強会というのがありまして、で、予算の最初から最後まで、収入支出の全てについて、担当の課長さんたちに対して何でも質問をできるという機会です。で、議会の議員対課長さんという、質問・回答という形です。ですので、その後、議員間で、これはもうち

よっと力入れたらいいかもしれない、それがもう今回の予算の本会議で採用されるということは難しいかと思いますが、まあ、議員の中で、細かいとこまではいなくてもざっくりばらんと意見交換、先ほど石川委員がおっしゃられたような形がまず最初の一步としてできたらどうかと私も思うんですけども、いかがでしょうか。

嘉喜山委員がおっしゃられたのは、これを否定するものではないと思います。もちろん議長に諮って、全協なりでね、やるやらんっていうことは最終的にはなりますが、活性化委員会からの提案として出すかどうかというところで、ほかの委員の皆さん、いかがでしょうか。

○**少林委員** すいません、教えてください。

その、9日・10日のやつは、以前、何か議場でやってみたいな感じですか。質問して。ああなるほど、決算審査みたいな感じですね。

もう、でも、あの大きいところではやっぱり、うちらまだ、そのですね、こんなちっちゃなことまで聞いたらいけんとか、恥ずかしいとか、いろいろあるから。

(「何でも」と言う者あり)

○**少林委員** ああそうですか。はい、そういう、ありがたいです。その後、みんなどう思うって、やっぱりお互いに聞きたい部分がありますね。で、はい。さらに、さらに今度それを聞いた後でちょっと練り合いをできたらいいなと思います。

○**金繁委員長** はい、石川委員。

○**石川委員** その予算委員会ができるかできないか、全協でやるかどうかっていうのは別にしても、やっぱりこう、予算の説明を受けて、で検証して、事前通告か何かで、質問事項、政策提言ですよ、いう形にしたらすんなりいくんじゃないかなというふうには、流れる的には。もういきなりその場で質問するんじゃないくて。予算のこの事前通告ができるような形に持ち込めれば、執行部側も回答しやすいし。いきなり今の予算で審議が始まって、質問、質疑出しますけど、いきなりやから、執行部側もかなり質問事項については用意はしていると思いますけども、さらに踏み込んだとこまでやろうとすると、やっぱり事前に議会としてはこういう政策提言もありますよという形に持ち込めれば、執行部もそれなりに対応できるんじゃないかなというふうには思いますけどね。

○**金繁委員長** ですよ。それをね、今回の3月議会、もう直前になっているので、そういう形にできるかどうかは、全員協議会なり議長と相談の上になると思うんですが。

嘉喜山委員。

○**嘉喜山委員** 今の意見に対してですけど、今まで反対の立場におった人間としては、やはりそれが、やはりそれをやったほうが詳しい説明もできるし、で、まあいうたら本会議の中でこの数字を教えてくださいとか、そういったものは事前に聞けばいい話なんで、もっと内容のある質問ができる、質疑ができるんじゃないかなと思います。

だから、事前に通告では、通告まではいかななくても、これは聞きたいと本会議で、それ、その取捨選択が必要だろうと思います。

○**金繁委員長** はい。ちょっと待ってください。はい。今の嘉喜山委員のお話を聞いて、私も共通のことを聞いたことがありますして、本会議で突然にこうね、質問する。で、担当課、それから担当職員のその事業を出してきた思いとかね、現場を見てきたそういう生々しいお話もやっぱりその委員会、予算委員会をやっている議員さんから聞きましたけど、お話を議会が聞くことによって、やっぱりその事業に対する理解が深まる。

で、本会議でボンとやってしまうと、やっぱりその対立軸ばかりがこう際立ってしまって、なかなかお互いの理解が深まらないという問題が指摘されたことがあります。まさにおっしゃるとおりで、やっぱり議員間でしっかりと話をして、必要であれば担当の方にも来ていただいて、理解を深めるということが、事前にされる必要があるんじゃないかなと。だからこそ今の議会、たくさんところでそういうふうになっているんだろうなと思います。

はい、すいません。

少林委員、お願いします。

○**少林委員** 半分は同じだったんですが、そういうその血と肉の通った説明っていうのは、こういう遠くで、こう、対面じゃなくて、一緒にちょっとお話を、はい、ぜひ聞きたいし、数字以外の、もうさっきあれにもあったんですが、こうしたらこうなって、こう、こういう物語ですよね、そこが思っている、そういうのも含めてやっぱり聞きたいなっていうのがあります。

ちなみに、もう一つだけ聞きたいんですが、今度の3月に出されるその予算書っていうのは、私たちにそうやって見せていただけるのはやっぱり前日、いつ頃になるんですかね。

○**金繁委員長** 本多事務局長。

○**本多事務局長** 議会運営委員会が3月1日にありますので、その後ということになります。

以上です。

○**金繁委員長** 1週間はたつぷりと時間があります。

まだ発言されていない方、いかがですか。

はい、尾崎委員。

○**尾崎委員** ずっと話聞かせていただきましたが、確かに質問事項を、所定の書面なりを作って先に出すということは非常にいいことやと私は思います。もうこれはぜひ検討していただいて、導入していただきたいという思いがあります。

以上です。

○**金繁委員長** 書面を出すかどうかはまた検討するとして、ある程度、質問なりは決めるという方向はありかなとは思いますが。

ただ、本会議の自由な討論っていうのもまた本会議中心主義を取っている以上は、そこも変えることは今の段階ではできないと思いますので、あれですけども。やっぱりその、執行部から出されてきた予算について、質問を、勉強会で理解を深めながらも議員間で話し合いをして、最初なのでどんなものが出てくるか分かりませんが、ちょっとチャレンジしてみようかなという、皆さんそういう方向ではないかと思いますが、池田委員はいかがでしょう。

○**池田委員** 大変いいことだと思いますし、できたらそういう方向で。そしたら、そういう方向でいくことは将来的には委員会主義になっていくような展望もあるんですか、皆さん。それをやると委員会主義のほうになると思います。

○**金繁委員長** 議長、お願いします。

○**原田議長** 今、皆さんがおっしゃってました議員間での討議ですよ、前から皆さんそういう意見もあるんですけど、今、愛南町議会の本会議方式を取っているんで、そういうどうしても議員間での討議というのをしたいのであればまた委員会の方式等もまたいずれ考えていかんといけんのじゃないかなというふうに思っております。また今後の課題だと思います。

○**金繁委員長** そうですね。ただ、今皆さんがおっしゃったような、例えば勉強会が終わった後に、あれも全員協議会なので、執行部への質問が終わった後、例えば残って、その場でこうざっくばらんに、自分が関心を持つ議題について、議題というか予算の項目について皆さんどう思われましたかとか、こうなんやない、ああなんやないというざっくばらんな話し合いをちょっとチャレンジしてみたらどうかなという感じで、別にこう制度を変えるとかすぐにね、そういう話ではないかと思いますが。それなら問題ないですかね。いいですかね。全員協議会の流れの中で。

副委員長、いかがでしょうか。

○**吉田副委員長** 今回、先生の見見もあって、少し、先ほどの観点、ソフトな面でね、少しそういうのもどうですかっていうのはちょっと議長に提案させていただいて、可能な範囲で、

できることをやっていけばいいんじゃないかというふうに思います。

○金繁委員長 皆さん積極的、前向きに、議員間の予算に対する話合いをしてみたいということですので、議長、この会からの提案ということで、ぜひ前向きに御検討をお願いいたします。

はい、嘉喜山委員。

○嘉喜山委員 それはやはり、議長としたらですよ、形で出してほしいんじゃないかなと思うんですけど、どうですか。形として。ペーパー1枚でもいいんで、それで議運にまず議長が諮って、という形を取るべきだと思うんですけど。

○金繁委員長 なるほどね。ペーパーのほうがいいですか。

はい、原田議長。

○原田議長 そうですね、そうしていただければ。はい。

○金繁委員長 じゃあそのたたき台を私のほうで作りますので、皆さんそれを見て、修正・加筆などしていただいて、議長に出すということでのよろしいですかね。

いつまでにやるか。

傍聴席からの発言、許可します。

(発言する者あり)

○金繁委員長 これって何か法的に問題ありますか。

石川委員。

○石川委員 特別委員会として、やれるだけのことはやったらいいんじゃないですか。私はそう思いますけど。

○金繁委員長 事務局、何か、弊害とか。

はい。

○本多事務局長 特に、例えば法的云々ってということではないんですけども、今、吉村議員が言われたような形で、報告としてまとめるのか、もしくは現在の要望として提案するのかというところになろうかと思います。

以上です。

○金繁委員長 報告としてやるのであれば、議会で報告してということになります。で、要望としてなら可能であるんですよ。扱いは柔軟にしていただけのようです。

この3月議会、予算という大きな、重大性に鑑みれば、皆さんから出ていますこの前向きな話合い、議員間での話合いにチャレンジしたいということは要望として出してもいいんじゃないかなと思いますけれども、どうですか。出してみますか。

はい、嘉喜山委員。

○嘉喜山委員 要望という形で出したほうがいいんじゃないかなと思います。先ほど吉村議員言われたように、中間報告は必要だろうとは思っています。

以上です。

○金繁委員長 じゃあ要望という形で出してみましよう。私のほうで、できれば今日作って、明日には皆さんに流して、明日ってでも土曜日ですよ。流していただだけませんね。じゃあ今日中に、5時までに事務局のほうにお送りしますので、皆さん、はい、タブレットのほうに上げていただけるとお思います。ぜひチェックして、意見はどこでもらうのがいいですかね、リンクットのグループがいいですかね。じゃあリンクットのグループのほうでどんどん意見を出してください。そしたらみんなが共有できますもんね、どういう意見が出ているか。はい、頑張りましよう、よろしくお願ひします。

それでは、講師の方から頂いたヒントはこの辺で終えまして、今日の主題であります、前文と最高法規性、それから目的について。時間ももう2時間になってしまうのでね、どうしましようか。前回決めました私たちのルール、研修なりがあったとしても1時間半で終わるというルールを既に20分超えてしまいました、すいません。前文、最高法規性、目的につ

いては、次回に取り組むということにしますかね。総論的なものなので、そんなには時間かからないと思いますが。それプラス何条か進みますか、プラス1条ぐらいね。

ということにして、今日はじゃあここら辺で閉会にしたいと思います。皆さんどうもお疲れさまでした。

○吉田副委員長 はい、じゃあ最後に締めをしたいと思います。

今日、長時間にわたりまして、いろいろと勉強になったんじゃないかなと。本来の議会の活性化を図れる方向で、全員が、このメンバーは向いていけばいいのかなというふうに思います。

長時間にわたりまして本当にお疲れさまでした。これでじゃあ閉会いたします。お疲れさまでした。

委員長